

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 12月 26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600088		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム向原		
所在地	広島県安芸高田市向原町350番地 (電話) 0826-46-7022		
自己評価作成日	平成28年11月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600088-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年12月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

1階が保育園、2階がグループホームという安芸高田市初の合築施設であり、園児たちとの季節行事の交流はもちろんだが、天気の良い日には利用者が園庭まで散歩に行き、園児たちとの触れ合いを楽しんだり、また、居残り保育の時間になると園児が2階に上がり、お迎えまでの時間を利用者と一緒に過ごしたりと、日常的な関わり、触れ合いが持てる形での交流に力を入れている。グループホームの設えにおいても、施設を感じさせないように意識し、利用者自身が「自分の家」として生活していただけるように、生活空間や環境づくりの充実に努めている。
また、地域住民との交流が図れるように、日頃から地元のスーパーへの買い物や地域の催事等の行事に積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

創設されて3年目を迎えるグループホームである。建物の1階は保育園、2階はグループホームという、安芸高田市初の保育園と高齢者施設の「合築施設」として開設した。夕方には、延長保育の園児がグループホームを訪れて利用者と共に過ごすなど、子どもたちとの触れあいの中から「笑いと元気な笑顔」が生まれている。各ユニットに専門職員を配属し、利用者、家族と協調した地域密着のケアを展開している。グループホームの周辺は、病院、図書館など併設の生涯学習センター、スーパーマーケット、郵便局、高等学校、JR向原駅など、町の中心地にあり、利便性に富んだ環境である。
ユニットも和風と洋風に区分して、大人感覚の重厚な家具と調度品を配し、落ち着いた生活空間を創造している。広いテラスからは、雄大な田園風景が一望され、眼下には保育園の園庭も望める。子どもたちの歌声が響き、生き生きとした生活者の息づかいが感じられる施設である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所の理念を基に、全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、好きな事を見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプランを作成し、共有している。	職員の目標記入シートを基に半年間の自己評価を行い、職員面談を通じて、理念の共有と定着を図っている。結果として、利用者との関わり方、職員のスキルアップとチャレンジ精神の醸成と積極的な研修参加など、自己啓発への大きな効果をもたらしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事の情報収集に努め、地域行事には職員と一緒に参加していただいている。また、隣接する生涯学習センターみらいの図書館利用や近隣の商店での買物、外食、美容院の利用等、地域の方との関わりが持てるよう配慮している。地域の傾聴ボランティアに時々来ていただいている。地元のとんど祭りにも参加した。	隣接の生涯学習センターの図書館の活用、地域の各種行事にも積極的に参加している。近隣のスーパーでは、地域住民との交流の中で買物をし、地元の高校生の実習受け入れや文化祭、「とんど祭り」への参加など、日頃から地域との交流を促進させている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事への参加はもとより、年4回、広報紙を発行し、地域へ当グループホームの存在に対する理解が得られるように努めている。また、運営推進会議において利用者、地域福祉関係機関にも積極的に参加していただき、発言等していただくことで理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的実施している。行事や利用者の状況等の報告を行い、意見、情報交換の場を持ち、サービスの質の向上に努めている。行政担当者や民生委員、地域の傾聴ボランティアの方にも参加していただいている。	毎回、民生委員の参加もあり、本人や家族の参加が多いのが特徴である。会議では行事や現状報告、ヒヤリハット・事故報告など、事業所の運営に関する説明のほか、参加者同士の相互の意見交換や懇親会も行われ、その要望、意見を汲みとり、事業所運営に反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは、運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取り組み等の情報交換を行っており、連携を密にしながら、質の向上に努めている。	運営推進会議には、行政、地域包括支援センターの参加も得て、管理者が市主催の多職種連携会議に、委員として参加している。運営推進会議録や広報誌の配布のほか、併設の保育園と一緒に、日頃から市担当者との情報交換を重ね、円滑な協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>1階が保育園ということもあり、安全面を考慮し、玄関の自動扉はセンサータイプとなっている。利用者の要望に応じて、職員と一緒に屋外に出ている。</p> <p>身体拘束は行っていない。</p>	<p>日頃から身体拘束防止のための部内研修会と法人内研修会等の職員教育を徹底し、身体拘束防止のための職員の基本的理解はできている。階下の玄関は、保育園との共用であり、保安のため、施錠をせざるを得ない状況にある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待について、スタッフ会議や普段から職員同士で話し合えるようにし、お互いストレスを少なくするよう心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については、関連資料を閲覧できるように心がけている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、契約内容等説明を行い、十分に納得の上で契約を結んでいる。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録等を郵送している。家族参加を考慮して、土曜日に開催することも検討している。</p>	<p>利用者の生活歴を基本に、本人の意向の把握に努めている。運営推進会議も家族が参加しやすいよう日程を調整し、積極的に家族の意見聴取を図り、事業所運営に反映させている。議事録の作成も職員が交替で作成し、参画意識を高めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回、ユニット会議を開催している。またユニットの代表者が参加してのグループホーム会議を月1回、開催し、意見や情報交換の場を設け、サービスの質の向上に繋げている。	各ユニットごとの定期的な会議開催と、ユニットの代表者が出席する全体的会議等を通じて、意見や提案を積極的に聞く機会を設けている。意見交換を通じて、利用者の介助方法、関わり方を再検討するなど、職員の意見を適切に現場に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用管理者による個別面談を、年2回、定期的に行い、就労状況の把握、人事面の希望等を聴き、働きやすい職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修（新任職員研修、処遇職員研修等）の参加や認知症介護者実践研修等の外部研修参加への機会を設けている。また2ヶ月に1回、担当職員が自ら企画、進行しての施設内研修を実施し、職員の意欲向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所、または地域の行事や研修会等に積極的に参加し、交流・意見交換を通して、業務改善、サービスの質の向上に努めている。また、法人内のグループホームとの交流会を実施しており、利用者の交流はもとより、職員同士の情報交換の場となっている。地域多職種交流研修等へも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネジャーを通して、本人に関する情報を収集したり、利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聴く機会を設けている。利用開始後も本人の思いを十分に傾聴し、利用者にとって安心できる存在の職員としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聴く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて、家族の思いを知る機会を設けたり、面会時に家族に対しての接遇に十分配慮したり、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に沿えるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の生活や生活歴を通じて、本人の得意分野等を見出し、共に楽しく行えるよう、また、日々の暮らしに活かせるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会にも来てもらいやすい雰囲気作りを大切にし、利用者、家族、職員で話しやすい関係性を築き、共に利用者を支えあう関係づくりに努めている。居室担当を決めて、信頼関係を構築するように心がけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても接遇に気を配り、明るく挨拶し、いつでも来ていただけるような雰囲気づくりに努めている。また、地域の行事や外出等を通じて、馴染みの人や場所に関われるよう努めている。</p>	<p>隣接の生涯学習センターで地元の人たちとの交流、家族対応で自宅に帰るなど、要望に応じた適切な情報提供や介助の方法をアドバイスしている。年賀状・暑中見舞いなどによる交流促進と継続、馴染みの人や場所との関係継続の支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事、外出等を通して、お互い助け合いながら生活していただいている。トランプやかるた等のレクリエーションにも工夫し、利用者同士の関わり合う機会が多く持てるようにしている。また、食堂において、コミュニケーションが取りやすい雰囲気作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先等からの相談や調整を行っている。また、他施設入所後も情報共有に努め、関係を大切にしていくように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から関わりや会話を大切に、本人や家族との何気ない会話から、思いや暮らしの希望、意向の把握に努め、利用者本位の生活が送れるように配慮している。	朝の体操時に、利用者の様子や体調を把握し、スキンシップを図りながら、利用者のその日の思いや行動に合わせた対応をしている。好みの食事がある場合は、誕生日に準備し、節度のある範囲で食前酒の提供など、本人本位の様々な支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会の人たちから、これまでの生活等のお話を聞き、馴染みの暮らし方、生活環境に近づくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体操終了後、職員1人ひとりが利用者として握手し、様子観察を行っている。その日の状態に応じて、本人に合った過ごし方ができるよう、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回開催のユニット会議にて処遇を行い、朝の申し送り等にて意見交換、情報共有をしている。また、カンファレンスも実施し、利用者、家族の意見を聴き、介護計画を作成している。</p>	<p>各利用者ごとに担当職員を決め、ケアマネジャーと一緒に介護計画を作成している。日々の介護記録には、職員が見やすいよう介護計画を印刷し、情報共有を強化している。この職員の情報共有に基づき、現状に即した介護計画への提言を促している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行っている。排便、入浴、シーツ交換等の表にも記録を取り、職員間で情報を共有しながら、実践面の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、本人や家族に満足していただけるよう検討し、柔軟に対応している。生活リハビリのみにとらわれず、利用者の希望に応じて、協力医療機関と連携し、リハビリ通院も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に進んで参加したり、地元の高中生や傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法や絵手紙教室（月1回）の開催も含めて、利用者が生き々と豊かで楽しい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。また、その他のかかりつけ医を受診されている方は基本、家族対応でお願いをしているが、必要に応じて介護職員が付き添いを行い、適切な医療が受けられるように支援している。医療機関と連携を密にし、希望に応じてリハビリ通院も実施している。</p>	<p>月2回の協力医往診のほか、歯科医による口腔ケアや義歯の調整、協力医以外の受診の希望や専門医への受診の際は、家族対応で適切に受診ができるよう、事前の情報提供や事後フォローを徹底し、利用者が適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談し、速やかに受診ができるように対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては、入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所前面談の際に、終末期ケアを実施していないことを十分に説明し、了解を得ている。重度化する前に、早目に家族と連携を図り、情報提供するとともに、安心して生活できる場の提供や相談を随時行っている。</p>	<p>重度化や終末期ケアの取組みは、現状では実施しないことを、利用者・家族に説明し、理解を得るようにしている。「看取り」も同様で、法人の専任相談員が関連情報を収集、活用し、家族の要望に応えるため、問題解決の支援体制を確立している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや吸引機を設置し、急変時に備えている。救命救急研修や感染予防研修の実施また、緊急時における救急搬送を円滑に行うよう、エレベーター作動（ストレッチャー対応）の訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>緊急連絡網を作成し、また毎月、実施している保育園の避難訓練に参加している。</p>	<p>事業所は市と地域の避難場所として協定を結び、毎月、避難訓練が行われているほか、年に1回、消防署の立会いの下、訓練を実施している。訓練は保育園と合同で、事業所の建物構造に応じた避難誘導方法について、消防署の指導を受けながら実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。また趣味や特技が活かせる生活の場を提供している。	介護記録や排泄チェック表の個人情報報は、利用者の目に触れないよう管理し、トイレ誘導の声かけにも気を配っている。トイレ内に利用者のパット等を置くこともあるが、暗号化により、名前が分からないよう、プライバシー保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるよう配慮している。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にしている。表出が困難な方には、馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には、自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聴き出し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿ってお化粧をしたりと、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。外部の理髪業者に依頼（毎月1回）して、希望者には施設内で散髪を実施している。また、地域の美容院を利用の希望へも個別対応をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にいき、楽しい雰囲気の中で共に食事をして、後片付けも一緒に行っている。お誕生日には、好みの物を聞いて提供している。	保育園と合同の調理場で、地産地消の食材を中心に、管理栄養士による減塩の献立が作られている。保育の休園日や行事食の時には利用者と一緒に調理している。食器にもこだわり、おしゃれで手触りのよい陶器を用い、食事を楽しめる、きめ細かい工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの日々の体調をみながら、本人の希望する量に合わせて提供している。水分補給についても、個々の要望に応じて、好みの飲み物を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとりに口腔ケアを促し、実施していただき、声かけや一部介助等も個々に応じて行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には、安心して行えるように配慮し、必要に応じて声掛けや誘導等を行い、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。</p>	<p>各人の排泄チェック表を活用し、適切なトイレ誘導により、排泄の自立を促している。布パンツの利用者は、全体の半数以上で、利用者の状態に応じた介助の工夫と排泄の自立に向けた取り組みがされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日、ラジオ体操、リハビリ体操の運動を行い、水分補給にも気をつけている。また、本人へ確認をしたり、状態を見ながら個々に応じて、お腹のマッサージを実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴を希望される利用者について、タイミングを合わせられるよう声かけを行い、また、できるだけ利用者の希望に沿えるように支援している。</p>	<p>家庭的な浴槽で、脱衣場も広く、洗面台の設置など、機能的な入浴設備がある。週2～3回の入浴としているが、希望に応じて、毎日でも入浴可能としている。脱衣場の上部に、新鋭の温風機器が設置され、温度差の解消など、安全で快適な入浴に工夫を凝らしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>利用者の生活リズムを尊重しな がら、日々の個々の状態を見な がら、ゆったりと過ごしていただ けるように支援している。昼食後 に居室にて休んでいただけるよ うに、声掛けや誘導も行ってい る。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方通り服薬していただき、確 認している。また状態によっては 職員間で話し合い、必要に応じ てご家族へ相談、報告し、医師 、薬剤師とも連携を図っている 。下剤に関しては、本人の排便 をチェックし、医師、薬剤師の 指導の下、服用、時間、量を決 めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>日々、本人の思いを考慮し、で きる限り、好きな事や、してみ たい事、やりがい等を見出して いただけるように支援している。 具体的には、食事の配膳準備 や始末、フローアークリア、カ ラオケや買い物等がある。その 日の体調の状況に応じて、臨機 応変に支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>散歩や、近くの図書館やお寺 に職員と一緒に出掛けている。 また、趣味や食事等のため、ご 家族や職員と一緒に外出もされ ている。</p>	<p>隣接の生涯学習センターの図 書館への外出、スーパーマーケ ット、近隣の散歩、ドライブや お花見など、法人の車両を使用 して、適宜、実施されている。 家族同伴で外出の際も、体調 面の情報提供など、適切に外 出支援が行われている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>本人や家族からの希望があれば 、支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族からの希望があれば、支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は利用者と共に清掃を行い、清潔を保つようにしている。季節感が感じられるような設えや家庭的な雰囲気を大切に、利用者にとって居心地のよい場所になるよう心がけている。</p>	<p>都市部では不可能な、広いロビーの設えと大人感覚の空間づくりに留意されている。ロビーに続く広いテラスは、眺望と家族交流の場としての機能を持たせている。照明も暖色系を採用し、空気清浄機の設置など、高級感を醸す、居心地の良い共有空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。また、ソファを設置し、利用者同士で会話も楽しめ、自由に過ごせる場を確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や家族と相談しながら、利用前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して、本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>	<p>各居室に洗面台が設置され、室内の清潔と衛生面に留意されている。最新鋭の空調機器と、ベッド、クローゼットで落ち着いた色調で統一されている。自宅から馴染みの調度品などを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム向原

作成日 平成29年2月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域住民の方における事業所の認識が未だに薄い	地域住民との交流の場を設ける	日常生活の様子の写真展および趣味・製作活動での作品の展示会を計画、実施する	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。